

伊那新校再編実施計画懇話会  
NSDプロジェクト進捗状況  
基本設計中間報告

24.03.13

目次

進め方と経緯

---

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1、これからのフェーズ      | P2～ |
| 2、関わるみんなの願いから空間へ | P5～ |

計画の説明

---

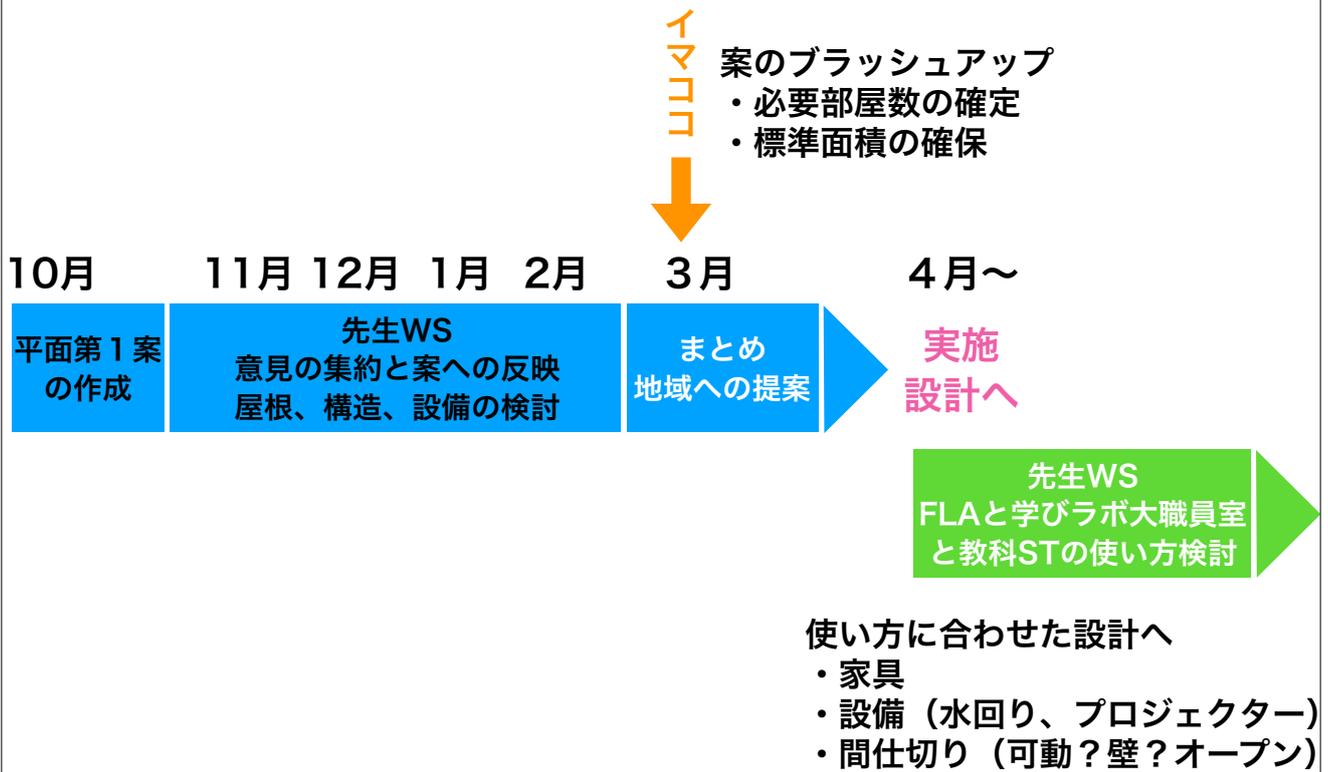
- |                   |      |
|-------------------|------|
| 3、全体計画            | P9～  |
| 4、先生の知見を設計に活かした部分 | P19～ |
| 5、新しい学びのためのスペース   | P29～ |

1

1、これからのフェーズ

2

# 基本設計と決定プロセス



## 基本設計の対話的進め方

- 11/17,24 先生WS 第1案提案  
↓ アンケートの集約、教育課程、メディアセンター保健、特別支援小部会ヒアリング実施
- 12/15,19 先生WS 追加説明 全体Q&A 意見聴取  
↓ 体育、芸術 家庭科ヒアリング実施
- 1/9 先生WS 第2案提案（アンケートの回答）  
↓ 1/19案 教育課程への確認、理科、進路指導 全体Q&A返答
- 2/8 先生WS 第3案基本設計平面の報告+FLAの説明  
↓ 伊那新校における部活の施設整備に関する考え方の共有（教育課程、理科、進路、から変更への意見徴収、音楽ヒアリング）
- 2/26 第2回生徒WS FLAの使い方  
↓ 大学生による主体的な学びのイメージ共有 高校生大学生による伊那新校における新しい学びのためのスペースの検討
- 3/13 懇話会 基本設計中間報告 ← イマココ  
↓ 随時、進捗状況報告、Q&Aの返信、実施設計の検討準備
- 懇話会等で報告



## 2、関わるみんなの願いから空間へ

5

地域（産業）  
を知ってほしい

部活動を頑張っ  
ている生徒を応  
援したい

良いことをし  
ている学生を褒  
めたい

大学進学だけが  
進路ではない

世界に羽ばたく

WSヒアリングなどから  
得られた地域の願い

人（街）との  
つながりを持つ

大学進学

広い世界を  
知る

お金の支援  
(PTA・同窓会)

ともに活動する

カフェと売店の  
運営

6

## NSD会議03のまとめ

### 新しい学びを実現する「FLA」

生活のしやすさ  
(時間と空間の余裕)

自分たちで選べる  
(多様性、自主性)

リラックス  
(自然、開放的)

教員の余裕  
(時間と空間の余裕  
コミュニケーションとリラックス)

7

### どう建築に反映させるのか？

関わる皆さんの願い



具体的なイメージ (建築)



新しい学びの実現のしやすさ (教育)



建築的な調整 (建築)



8

# 3、全体計画

## 3-1.配置計画

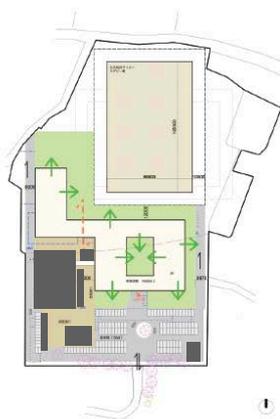
- ・合計8回のNSD会議、先生WGにおいて意見交換を実施
- ・校舎配置を南案と北案に大きく2分し、それぞれ主な特徴として以下の内容を整理

### 南側配置に決定

隣接する同窓会館や敷地内の高志館など既存施設も最大限活用するため、生徒・教員の移動の負担を軽減することで、今後検討していく教育プログラムの自由度を重視し、「南側配置」とした

#### 南側校舎案

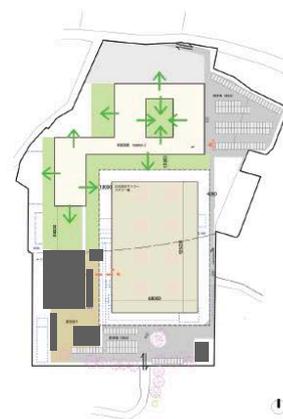
- **既存施設最大活用**  
同窓会館含む既存設備との距離が短い  
(移動の時間的余裕)  
→時間軸を伸ばした際に変化がある  
(体育館の建て替え等)
- **メインアクセス**  
駅的位置と拡張される【一万円道路】  
がメインアクセス
- **建物の正面性**  
正門側に校舎を配置し、生徒や来客を  
校舎で受けとめる



検討段階の配置イメージ (南側校舎案)

#### 北側校舎案

- **計画の自由度と余裕**  
建てられる範囲が広い  
(南に長く面する、FLA の環境)  
に対して自由度が高い
- **自由なアクセス**  
街全体を学びの場と捉えて、多  
くの方が関わりを持ちやすいよ  
うに大型駐車場が新校舎に隣接
- **新しい学舎の風景**  
凍結の心配のない南側グラウン  
ドで敷地全体を開放的に

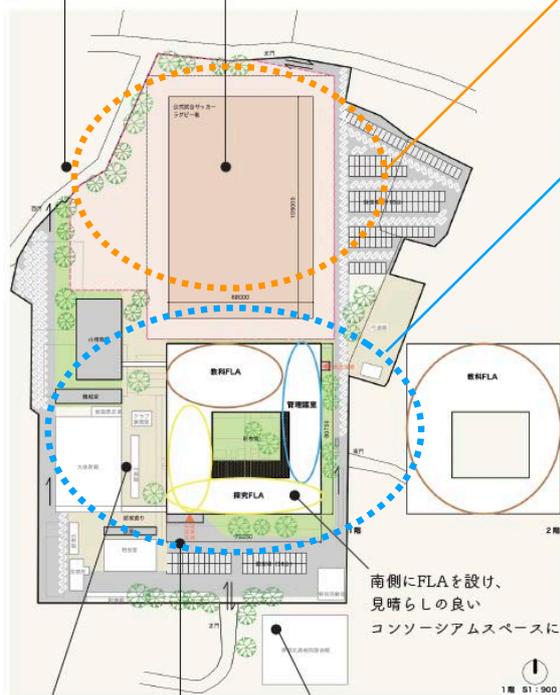


検討段階の配置イメージ (北側校舎案)

## 基本計画時

東西・南北に敷地を通過できる  
通路を確保しアクセスしやすく

既存グラウンドを広く取れるため、  
多用途に利用できる



北側にグラウンド

南側に校舎

基本設計のプランニングで  
大事にしたいこと

- ・ 既存校舎最大活用
- ・ メインアクセス
- ・ 建物の正面性
- ・ 計画の自由度と余裕
- ・ 自由なアクセス
- ・ 新しい校舎の風景
- ・ FLAの充実
- ・ 生活のしやすさ
- ・ リラックス
- ・ 教員の余裕
- ・ 教員のコミュニケーション

部室通りに  
活動が  
はみ出してくる

来客玄関と昇降口が  
正門から近い

各施設への行き来が楽

11

図3.配置のゾーニング案

## NSD会議などで検討された 基本計画から変更しないこと

- ・ 南側に校舎、北側にグラウンド
- ・ サッカー、ラグビーコートサイズのグラウンド
- ・ 平常時120台程度、詰め込み時+130台合計250台程度の駐車場
- ・ 南から入って北に車で抜けられる
- ・ 大体育館へ車でアクセス
- ・ 1階にも教科FLAを配置して、各階の生徒の人数のバランスをとる

# 1、グラウンドと駐車場



## グラウンド

- ・斜めにとり、建物が建てられる範囲を広く
- ・建物とグラウンドの間に余裕

## 駐車場

- ・建物になるべく近く
- ・西側通路を利用することで登校と通勤が干渉しにくい

## 車路

- ・南から入り北側に抜けられる



13

# 2、アクセス



## 生徒の主体性を育む自由なアクセス

活動動線を妨げないために、室内は下足で利用し、日中の校内への出入口も複数設ける。庭やグラウンドへ移動する際、昇降口まで行かずに、思い通りに行動でき、自主的な活動なるべく妨げない。床仕上げや掃除方法については、今後の課題。

生徒の主体性を育む  
自由な出入口  
(上履きなし)

わかりやすい  
来客動線



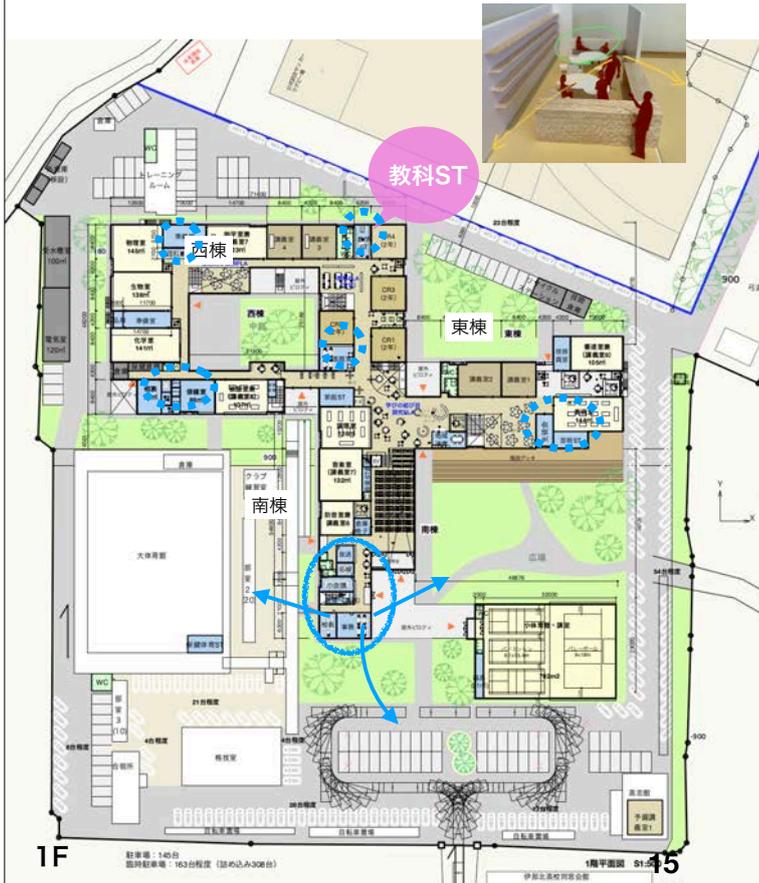
14

2F

### 3、集約と分散の教員の居場所

教員のウェルビーイングを高める環境づくり

- ・コミュニケーションと、利便性で大職員室に集約
- ・談話室での休憩とコミュニケーション
- ・教科ステーションで見守りと多様な居場所



#### 集約

- 1F 事務室
- 保健室
- 相談室
- 進路室
- 2F 校長室
- 大職員室
- 談話室
- 教員トイレ
- 更衣室休養室

#### 分散

- 教科ステーション
- 司書室
- 準備室



### 4、教科FLAとクラスルーム

クラスルームと講義室

学校と協議し、必要数を確保、利用率の低い特別教室は講義室としても利用し、合理化も図る

教科FLA

講義室を中心とした教科FLAはクローズで静かで奥のエリアに東西に長く、環境良く配置。

#### 教科FLA (クローズ、静か、奥)

- 産学官連携コンソーシアム
- 講義室、教科ステーション、
- 学びラボ
- グループ学習、生徒ロッカー



## 5、探究FLAとメディアセンター クリエイティブ科目の相乗効果



### 探究FLA

オープンでアクティブで表の位置に配置、地域との連携もしやすく、広場に広がって展開出来るよう計画。メディアセンターは学校の中心に配置し、様々な学びをサポート。休憩や自主学習や自主活動、ランチや空き時間の主体的な利用を想定。

### 探究FLA (オープン、アクティブ、表)

1F

進路室、生徒会、地域連携協働室、音楽室、防音室、調理室、被服室

2F

メディアセンター



## 6、体育館と地域施設の相互利用



### 体育施設

体育館、格技室、小体育館は南側にまとめ、体育の授業で、移動、連携のしやすい配置に。小体育館は講堂としても利用できるよう、独立して配置、ステージなどを設ける。校内を一周するランニングなども可能。

### 小体育館

(オープン、アクティブ、表)

講堂

正面性への配慮  
施設の相互利用



## 4、先生の知見を設計に活かした部分

### 「先生との対話」

19

### 南棟 1F

#### ■学校の顔となるホワイエ

- ・1学年分が入れる発表の場
- ・普段は展示や広いフリースペースとして生徒の活動を伝える場所に

#### ■来客対応しやすい学校に

- ・分かりやすい来客動線
- ・生徒動線と来客動線を分ける

#### ■進路室と地域連携

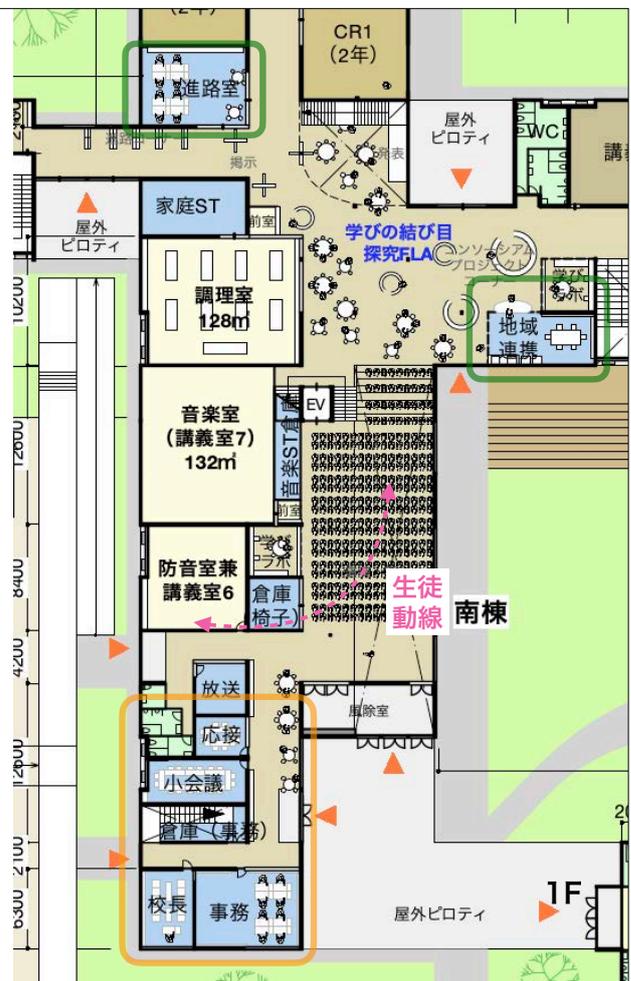
- ・進路室を生徒の行きやすい場所へ
- ・クローズな進路室とオープンな進路資料コーナーの組み合わせに
- ・地域連携協働室の近くに配置し学びと進路の連携を深く

#### 進路室と 進路コーナー

探究FLAが自らの進路興味と出会える主体的な学びの結び目となる広場に

#### 小会議+応接

来客関係を集約し、生徒の動線と分ける

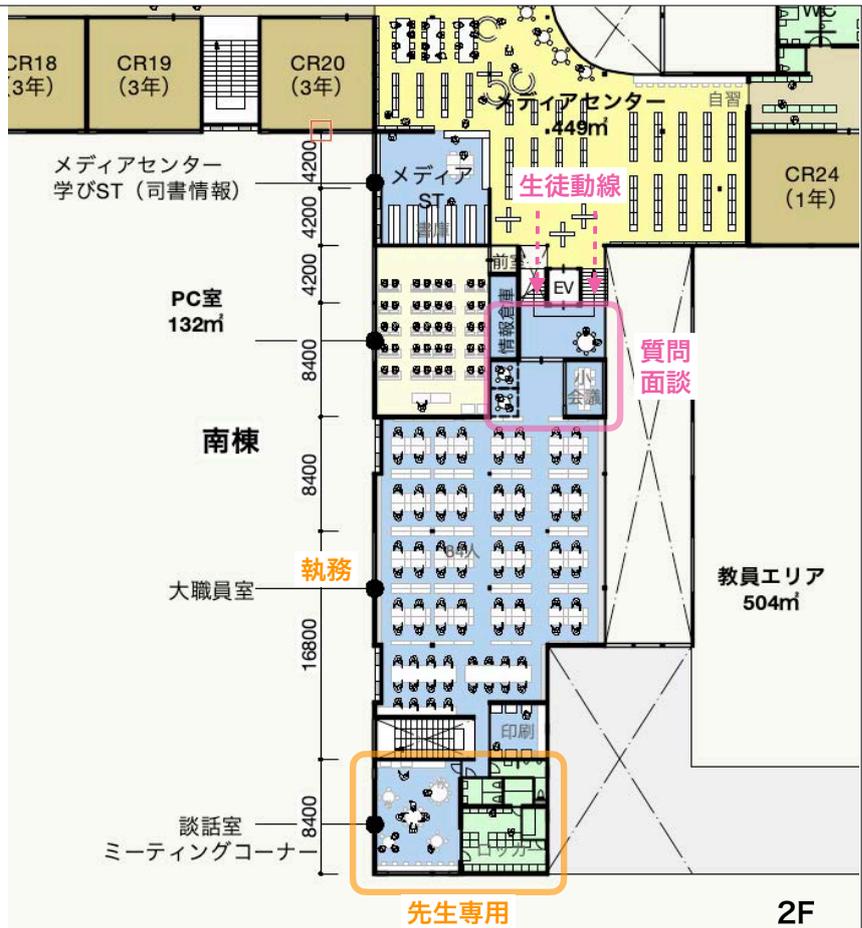


20

## 南棟 2F

### ■大職員室

- ・生徒との関わり
- ・集中した執務空間
- ・教員の休憩とプライバシー
- ・1階との行き来のしやすさ



21

## 東棟 1F2F

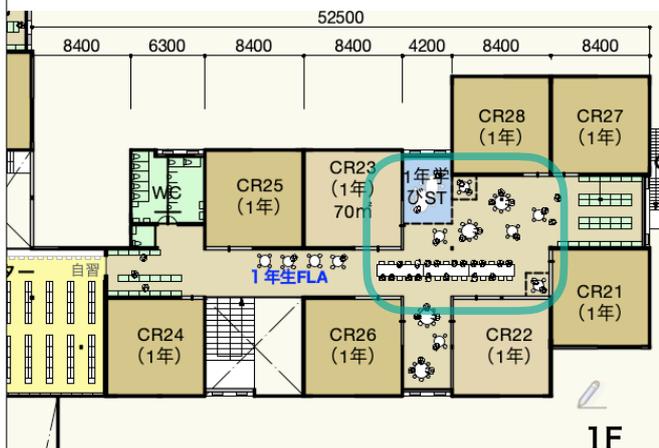
### ■クリエイティブエリア

- ・美術、書道、校用技師室などを集約し学校の中でもクリエイティブな活動がしやすい場所に
- ・動線の突き当たりに
- ・音の配慮

### ■1年生

- ・2階に学年のまとまりを持って配置
- ・学年のFLAを中心に、必修科目をHRで行うことを想定

### 1年生FLA



### クリエイティブ エリア



22

# 西棟 1F2F

## ■2,3年生

- ・学年のまとまりを意識し、HRを配置
- ・教科ごとの教科ステーションを中心に教科FLAを重ねて展開

## ■自然科学

- ・理科と数学の教科ステーションを同じフロアで
- ・自然科学エリアとして、教科を超えた学びの展開を期待

## ■ケアエリア

- ・南側の光が入る相談室、保健室を並べ、ケアや相談がしやすい環境に
- ・単独で外からのアクセスが可能



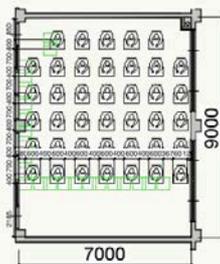
# 普通教室、講義室の広さ

## ■広くなる教室

授業の内容の多様化に対応するため既存の教室より5~7㎡広い教室へ  
(ストーブは設置しない)

どんな学びのための設備  
(黒板、ICT)  
机のサイズやバリエーション  
など今後の検討

現状



最小面積伊那北高校中校舎 63m<sup>2</sup>

その他標準 65.7m<sup>2</sup>



8400\*8400を教室の単位とした場合の、机レイアウト (例)

※ 机サイズは GIGA スクールを想定した 新JIS規格 700\*500 としています

# 講義室の数

## ■ 講義室の数

- ・クラスルーム (CR) 28個
  - ・**専用講義室 5個**
  - ・**兼用講義室 4個** (防音室、音楽室、被服室、書道室)
  - ・臨時講義室 2個 (高志館、同窓会館)
- 
- 合計 39個 (先生からの要望は36)

## ■ 講義室の転用

- ・CRについて、6箇所程度生徒の減少に伴いFLAに転用できるよう、構造壁を設けない。



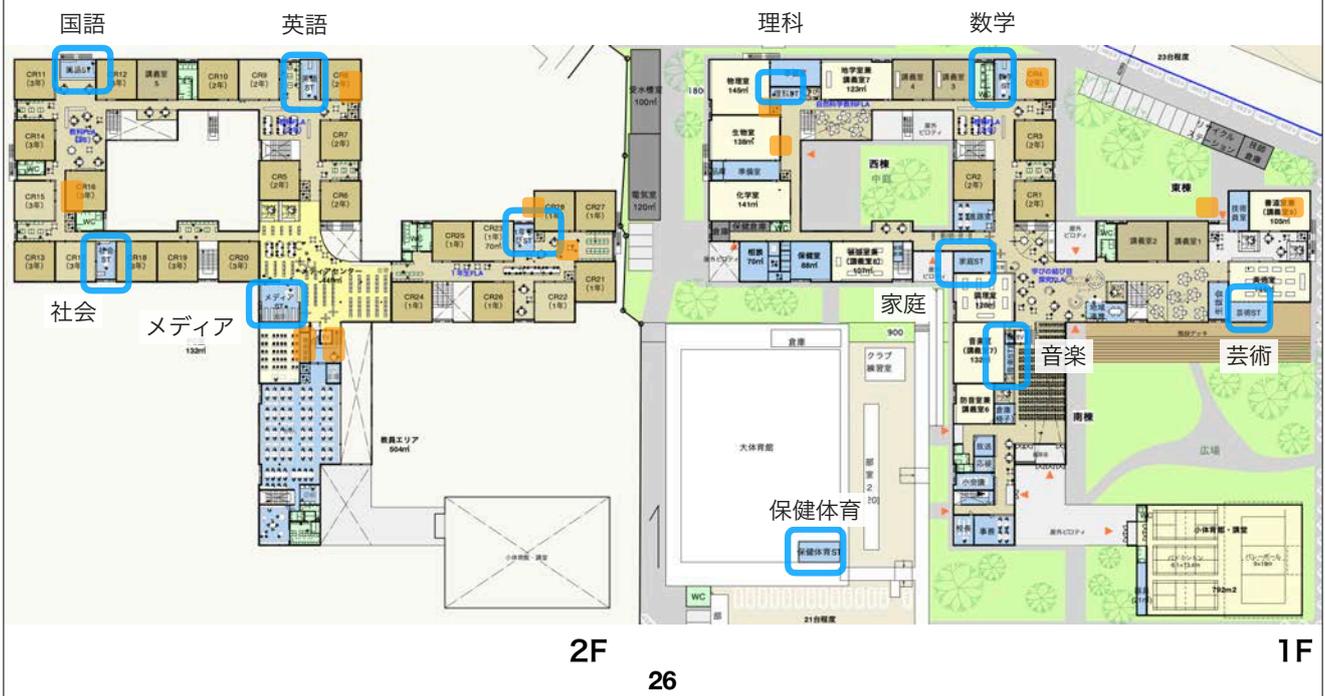
# 管理諸室

## 2、教科ステーション

- ・調整により位置の変更あり

## 4、面談スペース

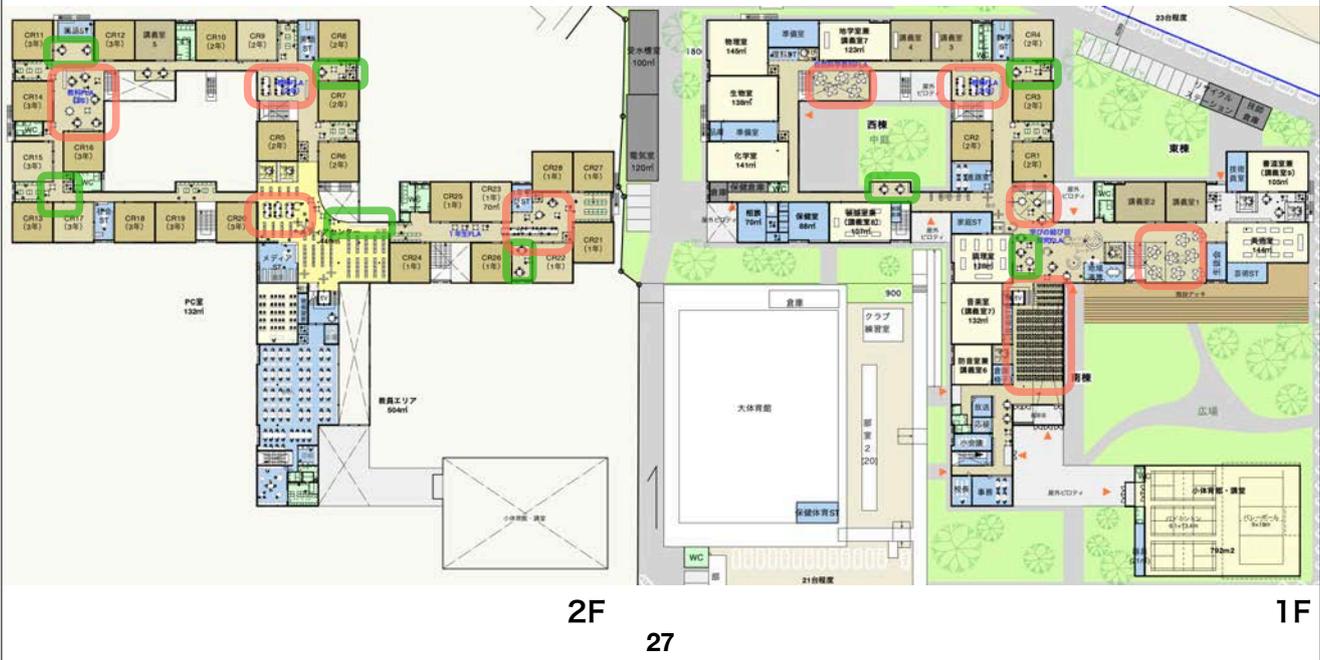
- ・FLAに13箇所用意
- ・教科ステーション11箇所
- ・放課後の空き教室



# FLA

## ■FLAの広さ

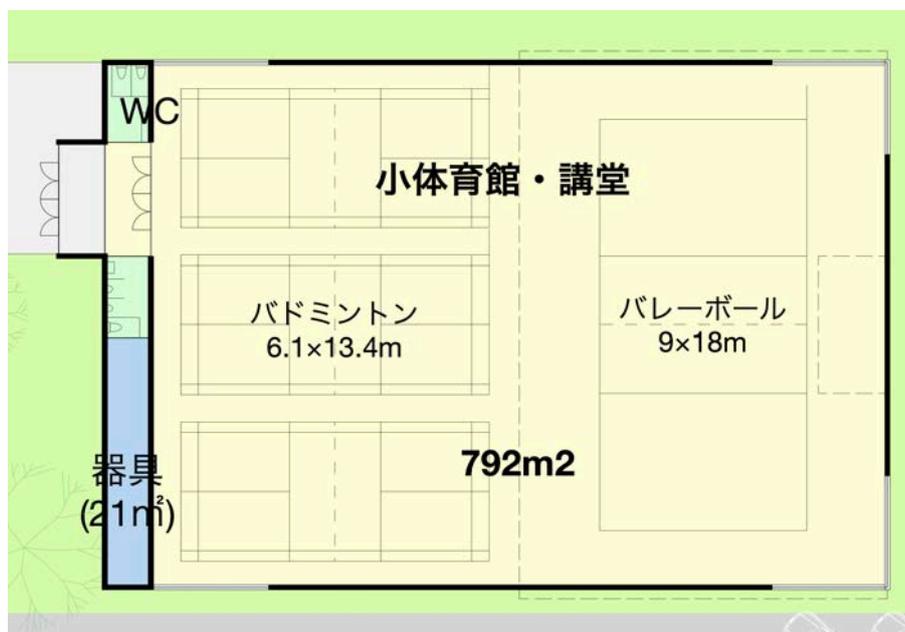
- ・教室と同じ温熱環境で、利用できるオープンなスペース
- ・1人から数人、1クラス、1学年と様々な単位での活動ができる場所
- ・生徒の自主的な活動がお互い気持ちよく展開できるような文化づくりが必要



# 体育館の広さ

## ■体育館の大きさ

- ・アリーナサイズ 32m×23m
- ・標準サイズ32m×21mより+2m広く（縦方向に1m削減）
- ・バドミントン6面、バレーボール2面が取れる



# 5、新しい学びのためのスペース

## 「伊那新校のFLA」

### 改めて伊那新校とは

#### ■ 目指す学校像

#### ■ 新たな学びに対応したシステム

- ・ 1年次：必修科目を中心に履修
- ・ 2、3年次：自分の学びを自分でデザインし履修する科目を選択

#### ■ 上伊那共学共創コンソーシアム

- ・ さまざまな人々と学びあい地域課題の解決や地域の活性化イノベーションの創出を目指すコミュニティ

伊那新校の学校像

自らの可能性を切り拓き、夢の実現に果敢に挑戦する高校

目指す学校像

- 「探究」を核とした学びを通して、自己実現と社会貢献を目指す
- 他者との協働を通して、多様な価値観を共有し人間性を育む
- 自主的な活動や創造的な活動を通して、主体性を育む

#### 新たな学びに対応したシステム

「探究」をベースにした教育活動  
個別最適な学びを実現する“単位制”  
文理融合した学び・教科横断型授業の展開  
大学・研究機関・企業・自治体などと協働した学び

1年次：必修科目を中心に履修

2・3年次：自分の学びを自分でデザインし、履修する科目を選択

#### 普通科

探究を核として持続的な学びを実現する学科

■地域課題を基に日本、世界に目を向け、これからの社会の核となる人の育成を目指す

- ◇地元自治体など、コンソーシアムとの連携による、ローカルな視点とグローバルな視点で行う探究活動
- ◇自らの興味関心や進路希望に応じて選択ができる多様な科目の設置

#### 特色学科

高度な探究により、卓越した学びを実現する学科

■学問の真理を追究する意欲、社会の課題解決への挑戦心や使命感を持つ人の育成を目指す

- ◇大学・研究機関をはじめ、コンソーシアムとの連携による、応用的・発展的な探究活動
- ◇課題研究や先進的な探究を行う科目、高度な内容を扱う科目などの設置

連携・協働

つなぐ役割 地域連携協働室

- ・ コーディネーター  
探究的な学びで地域と生徒をつなぎ  
良い関係で関われるように伴走する

#### 上伊那共学共創コンソーシアム

多様な人々と学び合い、地域課題の解決や地域の活性化・イノベーションの創出を目指すコミュニティ



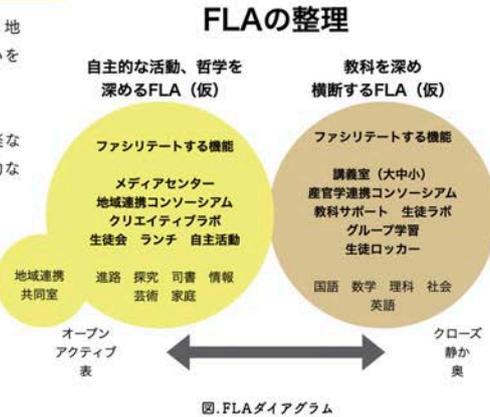
# 「伊那新校で充実させたい空間=FLA」

## 自主的な活動、哲学を深めるFLA（仮）

- オープンでアクティブな表となる場所に配置し、地域連携や生徒会活動などで人との繋がり・出会いを創造できる空間を構築する。
- メディアセンターや地域連携室などを美術や音楽などの特別教室機能を隣接するよう配置し、創造的な活動を相乗的に促進する。
- 誰が関わり、何が行われるのかが、まさに伊那新校でしかできない学びの核心となるが、基本計画後も地域と学校で議論を行い、深めていく。

## 教科を深め、横断するFLA（仮）

- クローズで静かな学校内の奥に配置し、単位の学びに適切な広さの講義室のほか、講義以外の時間にもフォーカスした学びの空間を構築する。
- 教科に関係する生徒ラボでは、生徒同士の学び合いや身近での研究発表などを通して、学びを深め、課題を発見し解決する能力を高める。
- 教員による教科サポートのスペースを配置し大職員室以外でも生徒と教員のコミュニケーションを深める。



## 自主的な活動、哲学を深めるFLA（仮）

活動の発表の場

地域連携室

メディアセンター  
などとの連携



探究FLAイメージ

ラウンジ・・・高校生と大学生が進路相談、  
高校生と地域の方がお茶飲みながら人生相談

## 探究FLA

- ・メディアセンター
- ・地域連携コンソーシアム
- ・クリエイティブエリア
- ・生徒会
- ・ランチ
- ・自主活動

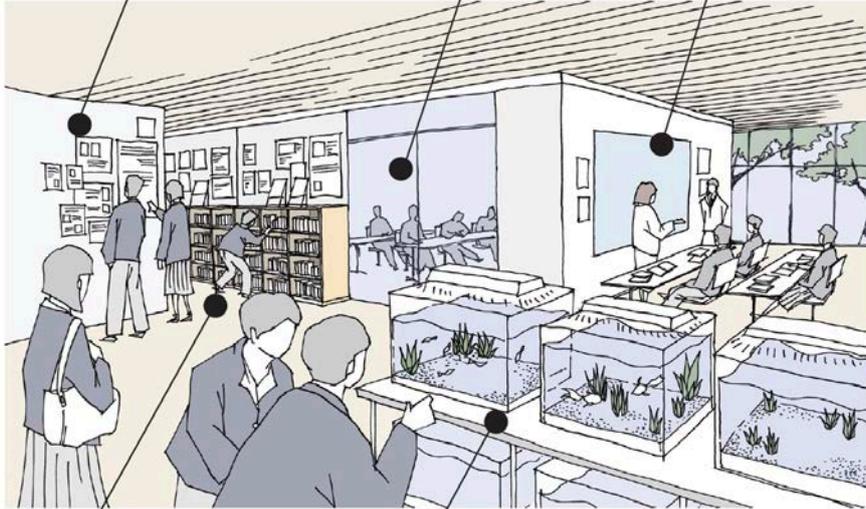
進路、探究、司書、情報  
芸術、家庭、音楽、体育

## 教科を深め、横断するFLA（仮）

オープンな講義室

クローズドな講義室

共同研究の発表



教科の資料が身近に

教科FLAイメージ

活発な議論の材料

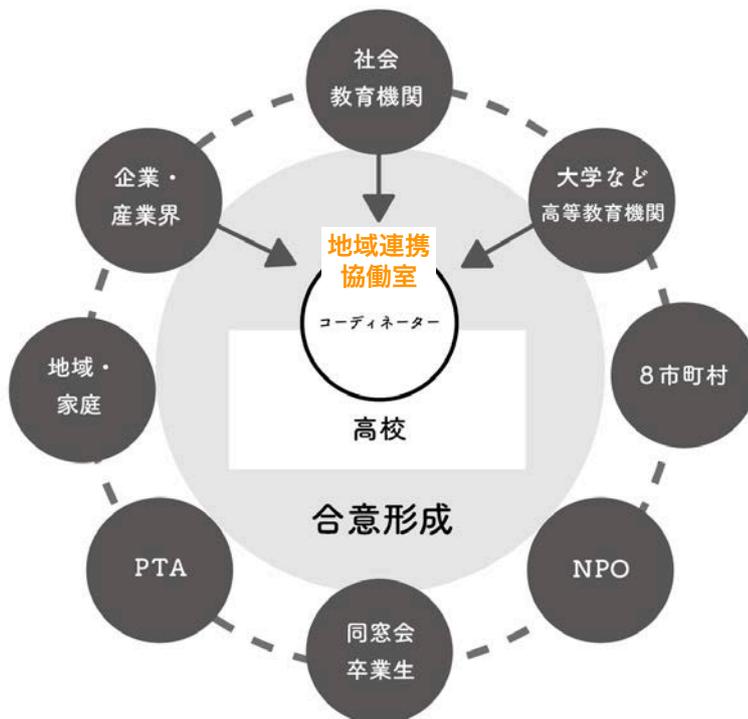
33

## 教科FLA

- ・ 講義室
- ・ 産学官連携コンソーシアム
- ・ 教科ステーション
- ・ 学びラボ
- ・ グループ学習
- ・ 生徒ロッカー

国語、数学、理科、社会、英語

## 探究的な学びを支えるネットワーク



地域の学びを支えるコンソーシアム

## コーディネーター

- ・ 高校が望む形で学びを支え生徒が安心して関われる環境づくり
- ・ 学びと経済両面への継続支援できる仕組みづくり
- ・ 高校や生徒に伴走できる距離感

34

# 探究FLA

## ■目指す学校像

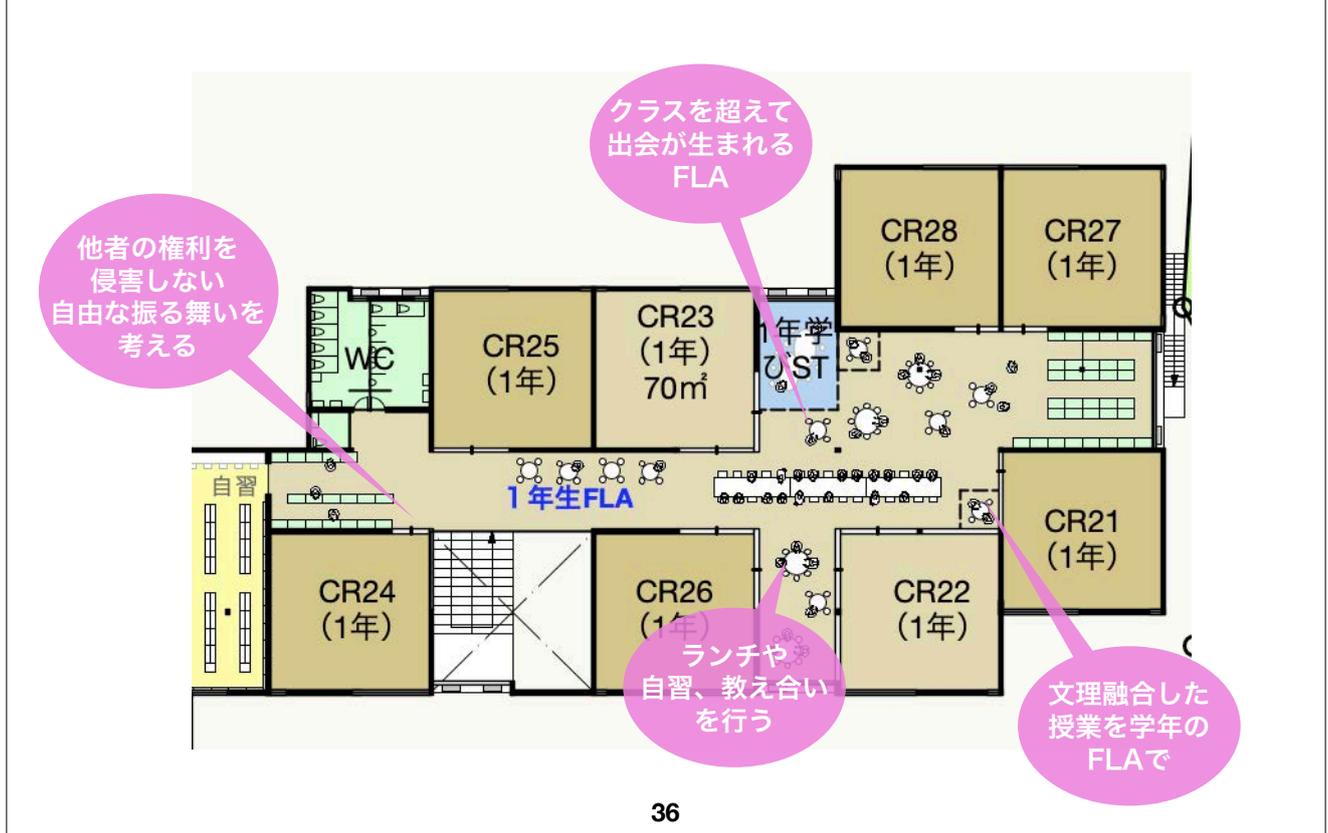
・どんなことが起こると、目指す学校に近づくのか？



# 教科FLA

## ■目指す学校像

・どんなことが起こると、目指す学校に近づくのか？



# 教科FLA

FLA

## ■目指す学校像

・どんなことが起こると、目指す学校に近づくのか？

